



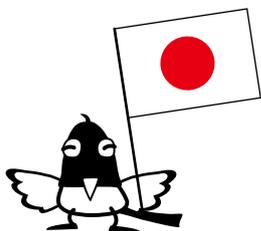
目次

「カチの声」最終号によせて

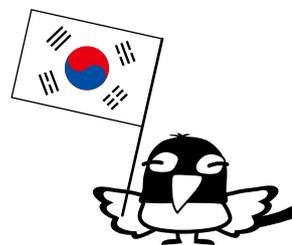
「にほんごだより」から「カチの声」へ、
そして「カチの声」の終了を迎えて…

着任のあいさつ / 帰任のあいさつ

LINK



「カチの声」 最終号によせて



2002年8月に配信を始めた「カチの声」を、この第171号をもって終了することとなりました。この間ご愛読
くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

キム デジョン大統領と小淵総理大臣が1998年に「日韓共同宣言」を発表したことを契機として、国際交流基金
ソウル日本文化センターが開設されました。

日本語事業につきましては、在韓国日本国大使館公報文化院の日本語講座を引き継ぎつつ、ソウル日本文
化センターとして改めて本格的に日本語事業を始めることとなりました。その際、公報文化院が発行していた
「にほんごだより」も引き継いで、ソウル日本文化センターでは名称を「カチの声」に改めて、配信を開始いた
しました。



「カチが鳴いたらうれしい客人や知らせが来る」という言い伝えのとおり、日本語学習者にとって読むのが楽しくなるような、有益な情報を提供したいという思いから、新しいニューズレターの名称を「カチの声」としました。

「カチの声」では、韓国の日本語学習者の皆さんが関心を持つようなコラム、日本語学習に役に立つコラムの提供に努め、途中からは毎月配信するようにしたり、また、日本語教師向けの情報提供も行ったりするなど、そのときどきのニーズにお応えするよう、務めてまいりました。読者の声を拝見すると、ある程度は、その目的を達成することができたのではないかと自負いたしております。

この「カチの声」発行にあたっては、特に韓国内の日本語教育関係者の方々に、コラムの執筆などで大変お世話になりました。韓国の日本語教育に精通しているだけでなく、韓国の日本語教育の発展のためという目標を当センターと共有して協力くださる方々がいなければ、ここまで継続することはできませんでした。本来であればお一人お一人に感謝申し上げるべきですが、ご協力くださった方の数がとても多いために、それはできません。代わりにこの場をお借りして、これまでのご協力に対し、心より感謝申し上げます。

この20年間、韓国の日本語教育を取り巻く環境にいろいろと変化がありました。

20年前と比べると、少子化の影響もあって日本語学習者数は減少していますが、日本語教師数は大きく増えています。韓国では、2025年の完全施行に向けて教育課程を改定中であり、日本語教育も少なからず影響を受けると考えられます。このような状況の変化を受けて、当センターでは今後、日本語教師への支援、とりわけ、韓国の日本語教育で一番大きな割合を占め、今後教育課程の影響を受けることが予想される中等教育の日本語教師を重点的に支援していく方針といたしました。

この間また、インターネットの普及率が大きく上昇し、日本に関する情報、日本語教育に関する情報へのアクセスが格段に容易となりました。そのため「カチの声」についてはその役割を終えたと判断して終了することとし、その代わりに、日本語教師への重点支援に注力することといたしました。「カチの声」配信終了の背景にはこのような事情があることを、読者の皆様にもご理解いただければ幸いです。

「カチの声」は終了いたしますが、当センターの日本語事業は、日本語教師支援を中心としつつ、日本語学習者支援も継続してまいります。当センター日本語事業に関しましては、今後、当センターホームページ、Facebook・Instagram（最終ページにリンクがあります）やダイレクトメールでご案内いたしますので、そちらの媒体でご確認いただければ幸いです。

当センターの日本語事業は、今後も皆様とともに歩んでいきたいと考えております。

これまでご協力いただいた日本語教育関係者、そして読者の皆様に改めて感謝するとともに、今後とも当センターの日本語事業に対してご理解とご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

国際交流基金ソウル日本文化センター 所長 加藤 剛

「にほんごだより」から「カチの声」へ、 そして「カチの声」の終了を迎えて…



「カチの声」の歴史を手紙の形でお伝えます。



「カチの声」の前身、「にほんごだより」を創刊した上野栄三先生へ
あの世ではいかがお過ごしでしょうか。

私が知っている上野先生であれば、そちらでも世界の色々な方を対象に日本語を教えているだろうと
思います。

「カチの声」の編集担当者から、終刊のお知らせと共に、「カチの声」の軌跡について執筆依頼を受けた
際、真っ先に脳裏に浮かんだのが上野先生でした。どうしてでしょうか。「にほんごだより」から「カチの声」ま
で約27年間発行が続き、そこには数多くの方々関わったはずなのに…。

でもそれは、先生の仕事を隣で見てきた私にとってはあたりまえのことかもしれません。先生は、頭の中
で描いた考えや計画を躊躇なく実行に移す開拓精神と行動力、そして日本語教育への情熱を誰よりも持
ち合わせている方でした。

記憶が定かではありませんが、1994年か95年、日本語教育専門家として国際交流基金から2度目の派遣を
された際、韓国の学習者の日本語表現が間違っている場面で、先生はいつも「どうしていつもここで間違え
るんだろう」ともどかしく思っていたら、そのもどかしさから誕生したのが「にほんごだより」で
す。先生は、「にほんごだより」を通してより多くの韓国の日本語学習者に正しい日本や日本語を伝えられたと
思います。余談ですが、「にほんごだより」のタイトルの字も先生ご自身が書かれましたよね。

21世紀に入り、インターネットを基盤とした情報洪水時代の到来によって、「カチの声」もその役割を終える
ことになりましたが、先生の日本語教育への情熱だけは多様な媒体を通して今後も受け継いでいこうと思
います。

いつになるかお約束できませんが、また先生には素晴らしいご報告とともにおたよりをさしあげたいと思
っております。

ジュミンジャ
朱敏子より

最後に、この間「にほんごだより」と「カチの声」の発行に携わってきた全ての関係者の皆様に感謝申し上
げます。また、「にほんごだより」と「カチの声」の最初と最後に、ソウル日本文化センターの一員として携わ
ることができたことをうれしく思います。

国際交流基金ソウル日本文化センター 日本語部 朱敏子

着任のあいさつ



はじめまして。2022年4月に藤田智彦日本語教育アドバイザーの後任として着任いたしました古閑紘子と申します。韓国に来る前は、インドネシアの日本語教育支援に携わっていました。ソウル日本文化センターでは主に中等教育支援を担当する予定ですが、さまざまな場で韓国の日本語教育関係者、日本語学習者の皆さんとつながりを持つことができたらと思っています。

私は高校生の時に1年間だけ第2外国語として韓国語を勉強したことがあります。その時は将来韓国で仕事をする事になるとは全く想像していなかったのですが、長い時を経て韓国語と再会できたことに驚きと大きな喜びを感じています。また、今韓国で日本語を勉強している中高生の中にも、将来私と同じような経験をする人がいるのかも…と考えると、なんだかドキドキ、ワクワクします。外国語学習/教育は人生に多くの出会い、きっかけ、可能性をもたらすものだと思いますが、韓国ではどのような瞬間に立ち会うことができるのか、とても楽しみです。これからどうぞよろしくお願いいたします！

国際交流基金ソウル日本文化センター 日本語専門家 古閑 紘子

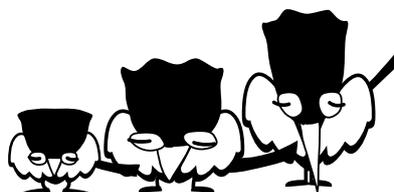
帰任のあいさつ



2019年8月より「カチの声」の編集と執筆（「データから見える日本の横顔」）を担当してきました黒野敦子です。このたびソウル日本文化センターでの3年間の勤務を終え、7月に離任することとなりました。まず最初に、これまで「カチの声」をご愛読くださったみなさまに編集担当者として心より御礼申し上げます。

在任中は、学校訪問やセンター訪問での授業、スピーチコンテスト、研修・セミナーなどを通して、多くの中学生・高校生のみなさんと先生方にお会いすることができました。また、センターのJF日本語講座では、一般成人学習者のみなさんと日本語の授業を通して交流することができました。この3年で、日本や日本文化に関心を持って日本語を熱心に学ぶ多くの学習者の方々に出会えたこと、教育現場で情熱と信念を持って生徒さんたちを育てる多くの先生方に出会えたことは、私にとってかけがえのない財産となりました。この貴重な経験と出会いを胸に、韓国とのご縁を大切に、これからも日本語教育に携わっていきたく思っております。これまで本当にありがとうございました！

国際交流基金ソウル日本文化センター 日本語専門家 黒野 敦子



これまで「**カチの声**」をお読みいただき、
誠にありがとうございました。

ソウル日本文化センターでは、
ホームページ、Facebook、Instagram、ダイレクトメールで
情報を発信しております。
ぜひアクセスしてみてください!



ホームページ <https://www.jpf.or.kr/index>

Facebook <https://www.facebook.com/jpfseoul/>

Instagram https://www.instagram.com/jf_seoul/

ダイレクトメール登録 https://www.jpf.or.kr/index/s6/s6_3.php